



第16回研究会 2024年2月23日

スパルタンイングリッシュ第16回は恒例企画！あきた COFS&英語授業研究会協同企画の「4月から教壇に立つ学生の不安や悩みに応える」です。教員採用試験に見事合格し、来年度から教員デビューをする若い先生たちのための特別企画です。今年で3年目になりました。

第1部は「若手英語教員奮闘記」として、現在、教師としてバリバリ働いている秋田と青森出身で若手の先生から、等身大の体験談を語ってもらいました。

第2部は「4月から教壇に立つ学生の不安や悩みに応える」として、春から教壇に立つ学生から、先生として仕事をする上で、不安なこと、疑問なことを聞いたり、アドバイスをもらったりざっくばらんにお話しする時間にしました。

採用試験に合格した大学4年生を中心に、アドバイザーとしてベテランの先生、合計11名の参加がありました。

第1部「若手英語教員奮闘記」

蛸嶋 亮介 先生（千葉県立茂原樟陽高等学校）

(1) 自己紹介

(2) 1年目を振り返る

採用当時を振り返ると

- ✓ 青森県から千葉県に上京
- ✓ 「よーいドン！」ではじまる社会人生活
- ✓ ついていくことで精いっぱい
- ✓ 生活にかかる強調線 × 使命感&勢い
⇒1日がずっと続く感覚だった
- ✓ 授業を待つ生徒がいる事実と「先生」と呼ばれることで芽生える自覚

(3) 教員としてのやりがい

- ✓ 人間対人間の営み⇒同じ結果がないから毎日新鮮
- ✓ 生徒とあらゆる経験を共有することができる
- ✓ 地道な取り組みで心を開く生徒
⇒人格形成や進路決定にダイレクトに携わることができる
- ✓ 一挙手一投足があらゆるきっかけとなる責任の重大性
- ✓ 行事！

(4) 大変なこと（教員として）

- ✓ 業務量の多さ
⇒常に頭の片隅には優先順位



- ⇒ 深めたい分野との住み分けが必要かも…
- ✓ 必ずしもいい結果で終わるわけではない
- ✓ 関わり方が生徒によって多種多様
 - ⇒ 教員間の連携
- ✓ とにかく臨機応変に！

(5) 英語科としてのやりがい

- ✓ 常に英語と向き合うことができる
- ✓ 時間をかけた実践に生徒はすぐに気づく
 - ⇒ 授業の評価者は生徒！
- ✓ 「苦手だった英語を勉強してみようと思った」など、モチベーションに直接影響を与えることができる！
- ✓ 毎日実践することができる機会の宝庫
- ✓ 生徒から学習者としてのやる気を貰うことができる！

(6) 大変なこと（英語かとして）

- ✓ 新観点評価とパフォーマンステスト
- ✓ 生徒の英語学習への動機付け
 - ⇒ 単発的なものではなく自律的な学習者を育てたい
- ✓ 追求と改善のループ
 - ⇒ いつまでも燃え続ける熱意！！
- ✓ ICT 利用へのハードル
 - ⇒ 一つのチームとして…

(7) 4月までの過ごし方

- ✓ 英語学習の習慣作り
 - ⇒ 本来、一生涯続くもの。働きながら学習を進めれる準備を
- ✓ 実践の原石を作っておく
 - ⇒ 常に続くブレインストーミングに備えて！
- ✓ ICT の研究
 - ⇒ Microsoft アプリ/Google アプリに慣れ親しんでおく
- ✓ スケジュール管理の準備
 - おススメは Google Calendar !

(同僚に聞いた 4月までの過ごし方)

- ✓ 旅行に出よう
- ✓ それぞれの学校種の生徒の興味にアンテナを張ろう
- ✓ 100円均一でイメージを膨らませよう



- ✓ 朝型人間になろう(満場一致)
- ✓ 無理のない運動習慣を確実に身に着けよう
⇒最初は「細く長く」をイメージ
- ✓ 謙虚な心を!

(8) 僕が大事にしているもの

- ✓ 授業
⇒教員の核だと思います。慢心は成長の敵!
- ✓ 指導者である前に学習者。学びを止めないこと!
- ✓ 授業の見せ合いっこ
⇒「授業を見せて」と頼まれたら絶対に断らないこと!
- ✓ 失敗は買ってでもしましょう
- ✓ 「やりすぎかな?」って思うくらい仲間を頼ること
⇒ やり取りの機会を増やすためには?を念頭に行動する

都丸 桃花 先生 (白井市立大山口中学校)

(1) 自己紹介

大学4年の時, 第一回の合同企画に参加しました!

3学年副担任

バドミントン部顧問 (バドミントンは未経験)

(2) 大山口中学校について

(3) 仕事について

① 3学年職員

- ◇ 生徒とも職員間も関係が出来上がっている
- ◇ 関係の中に早く入っていけるように, 名前を覚える+名前を呼ぶようにして, 関係の中に入っていく努力をした
- ◇ 総合や学活の時間(修学旅行の準備など)は各クラスをまわって, 生徒間の関係性を把握したり, 各学級担任の学級経営の方針を学んだりするチャンス
- ◇ 生徒主体で動かす, 自分がやれば早いことも生徒中心で, 準備や委員との計画がカギ
- ◇ 徐々に受験を意識→日ごろから受験を意識した言葉遣い, 身だしなみをさせる(自分自身が模範となる努力)
- ◇ ここまでに提出物をなああにすると, 受験に必要な提出物が集まらない
- ◇ 基本的な生活習慣を1年生のころからつけて継続させることの大切さ
- ◇ 受験だけでなく, 中学校生活をどうまとめるか, どう終わらせたいか

② 授業について

- ◇ 少人数クラス
- ◇ 授業づくりで大切にしてきたこと



- コミュニケーション能力の育成
 - 全員が一回はできたと思える授業
 - やる意味を持たせる
 - 授業規律の徹底
- ◇ 英語の基礎基本はあまり定着していない
 - ◇ 音読や英語を話すことには積極的
 - ◇ 一方で英語は苦手！嫌い！と心を閉ざしている生徒も見られる
 - ◇ ペア活動の活用
 - ◇ Warm-up が全員が英語を使う
英語科得意な子どもだけでなく、苦手な子どももできた！と思わせる活動
Small talk, BINO, 英単語したりと、推測ゲーム
⇒warm-up で成功したらその日の授業は誰も寝ない
 - ◇ あいづちを打つ練習と習慣づけ
 - ◇ 生徒がその活動をしたい！やろう！と思える言葉がけや工夫
 - ◇ 「今までそうだったから」で進めない（授業の前の日付，曜日，天気の Q&A）
 - ◇ めりはり，やるべきことは最低限やらせる（ゲームの後の切り替え，友達とのおしゃべり）

(4) 4月までの過ごし方

- ① 自己紹介を考えておきましょう！
職員室，全校，学級，保護者，部活・・・
- ② 授業のルール，ガイダンス内容をまとめておきましょう！
何年生担当になってもいいように準備しておきましょう！
ノートづくりは？予習復習はどこまで？
- ③ どんな学級経営をしたいか？
- ④ 「これだけは譲れない」を大切に

- ① 映画，本，旅行，流行を知る
→生徒との話のタネを作る
- ② 自分にたくさんお金をかける
→美容室，エステ・・・
- ③ 今しかできないことをやり切る！
→髪を染めとけばよかったな・・・

(5) 最後に

- ◇ 服装はスーツがベター，クールビズが始まったら徐々に，周りを見ながら
- ◇ ロッカーに，ジャージ，ジャケット（革靴）を用意しておく心安心
- ◇ やったことがない部活を担当になったら，生徒にはできないと素直にできないと伝えましょう。
技術は勉強しながら一緒に頑張る。人間としての成長を促す指導はしっかりと（あいさつ，礼儀，人間関係など），生徒たちが活動ががんばれる環境を整えることが顧問の一番の仕事です。



- ☆ ひとりの職員さん（事務員，養護教諭，用務員）を，絶対に大切に！提出物やるべき作業などしっかり行う，学校のすべてを一人でやっている人に迷惑をかけないように！
- ☆ 分からないことだらけで最初の数カ月はしんどいこと大変なこともあると思います。くじけそうになった時は「この学校で一番もらっているお給料が低い，だからできないことがあってもよい」この言葉を思い出し，気にしすぎず，次はできるにがんばろうと思えばよいです。1か月がんばればゴールデンウイークです。一緒にいい先生を目指しましょう！

第2部 「4月から教壇に立つ学生の不安や悩みに応える」

参加者全員で，4月から教壇に立つ学生の悩みついてざっくばらんに語りました。

学生から出された悩みとしては・・・

Q1 好かれる先生になるにはどうすればいいですか？

- 生徒に媚びを売らない，一生懸命な先生に生徒はついてくる，なのでこれでもかというくらい全力でぶつかること。「こうしたら生徒は授業中よろこぶだろうな」ではなく「こうしたら生徒に力がつくだろうな」と考える。
- 日ごろから，別に嫌われてもいいやと思って生徒に接している。うちの学校の格言のひとつに「お寿司だって嫌いな人がいる」というのがあって，だからあなたのことを嫌いな人がいるのも当たり前。全員から好かれる先生は存在しない。その子たちに好かれるためにではなく，その子たちがどうやったらいい人間として中学校を終えられるかを意識して，嫌われても指導すべきことはするし，伝えることは伝えるようにしている。ただ，話をしたくなる，相談したくなる，雑談したいなと思ってもらえるように，自己開示をすること，生徒がこれ好きなんだよねって言ったことはできるだけ，その日に家に帰って確認して，「見たよ」と言えるようにして，あなたに興味関心があるんだよということを伝えられるようにしています。
- いろんな学校を経験したきたが生徒に好かれようと思ったことは一度もなかったと思う。学校の実態に合わせて一生懸命やってきたという思いがある。
- 今，ヘルニアで整形外科に通っているんですが，お医者さんは僕が痛くて苦しいことにちゃんと共感してしてくれて，適切な治療をしてくれて，症状がよくなっている。だから僕は，そのお医者さんのことを信頼しているし好きです。そのお医者さんは，僕に媚びを売ったり，好かれようとは思っていないと思います。教師と生徒も同じなのではないでしょうか。
- 名前と顔が一致していることだろうと思います。

Q2 授業外の業務の負担が多いと聞くことが多いが，具体的にどの業務が大変か？その中でどうやって，多忙な中でも乗り切れるか？

- 保護者対応が一番丁寧で，かつ場合によっては丁寧に対応しないといけない。さらに，早いからいいというものでもないし，相手がいるものだという意味で大変だと思う。ただ，「チーム学校」といわれてるように，大変な時は周囲の先生に助けを求めて，つぶれないようにすることが一番大事なかなと思う。教採と業務の両立についても，あらかじめ「私教採受けるんです」と言っ



ておけば助けてくれるので、7月までは「この日は早く帰って勉強するぞ」というようにして、採用試験が終わったら「今までの分がんばります！」というようにやると、みなさんから温かく受け入れてもらえると思います。大変だとは思いますが、がんばってください応援しています。

- 最初の一年目は、そんなに重い仕事を担当することはないと思う。その中でもどの業務が一番大変かと聞かれると分掌かなと思う。次に部活動だと思う。でも、学校にいる限り、気になりだしたら全部重たい気がするので、ある程度は自分でノルマを決めて、そこで切り上げる力・勇気というのが大事になってくると思います。
- 保護者との関係・問題が起こった時の学年の動きが大事だと思う。あとは人間関係には十分に気を付けてほしいと思う。一度こじらせるとなかなか修復することが難しい。
- やったことのない部活を担当すると負担が大きいと思う。
- タイムマネジメントが大事だと思う。24時間を、8時間睡眠+8時間仕事+8時間その他という割合でやってきた。何か問題が起こったときに決して自己判断で行動しないこと。体調を崩して休んでしまうと、同僚に迷惑をかける、そして子どもたちに迷惑をかけてしまう。
- 仕事の割合を決めていた。また、中体連の前は部活の割合を増やすなど対応をしていた。とにかくメタを働かせて全体の中で仕事をとらえることが大事だと思う。

Q3 ICTはどのくらい普及していますか？

- 職員全員にMacross365のアカウントが付与されている。Teamsを活用して資料の配布や振り返りをしている。
- 小・中学校生一人一台端末が配布されている。授業でデジタル教科書を毎時間使っている。ただ、生徒自他に対しては毎回タブレットを使うことはない。テストの前の準備や調べ学習など要所要所で使わせている感じです。生徒は翻訳ソフトを使って書くことがある。ただ、相手に伝わらないもので反だめだよねと指導している。
- 教科書はこれまで教授する側にあるという考え方であったが、これからは学習者中心という発想、教師は教え込むのではなく、生徒の学習していろいろ試行錯誤しているところにサポートしていく役割に変わってきている。だからICTをそういう風にするべきだと思う。どうしたら、生徒たちが自分から勉強して、分からないときに自己調整を図ってやっていくかという発想を若い人にはMUSTで持ってほしい。
- 考えることを中心にすることが大事だと思う。生徒たちの学力や学校の実態に合わせて臨機応変に使い分けるとことが大事だと思う。
- 日本語も、英語も、ICTもツールであり、必要な時にすぐ使えるように磨いていくことが大切だろうと思う。

Q4 私は学生の時ですら時間の使い方がうまくないです。先生とになってさらにプライベートの時間が少なくなる中、どうやって研修したり、指導力を磨いているのですか？

- すぐできること、その場ですぐやらないと忘れちゃうなものなどはすぐやること。週の○曜日は早く帰るのようになっている。通勤時間が長いと大変なので、学校の近くに住んでその分の通勤時間を浮かせる。



- 本業である授業改善は大事だと思う。鉄は熱いうちに打てという意味で、授業の改善は授業の直後にやるように、最低でもその日のうちにしている。英語学習については寝る前の時間は記憶のゴールデンタイムという意味で最低でも30分資格試験用の単語を勉強する時間にしている。日曜日はしっかり休む時間にしている。
- 教材研究は学校でやって、なるべく家に持ち帰らないようにしていた。一週間に一日くらいは自分の好きなことをやる日にして、ストレスをためないようにしてほしい。
- To-Doリストを作って、空いている時間にどんどん仕事入れるようにしていた。通知表の所見などは、思いついたときにやるようにしていた。まとまった時間は教材研究に、事務仕事は隙間時間にやるのが大事だと思う。時間は24時間で増えることはないので、どうやって生み出すかの工夫が大事です。
- 朝のだれもない時間に教材研究をすると頭がすっきりして集中できるのでおすすめです。夜早く寝るようにしましょう。
- 教材研究も、研修会に出ることも、本を買って授業の研究をすることも究極的には自分のためだという意識でやってきた。ろくに準備や研究しないでやった授業に生徒がうんざりしているのを毎日6時間見るのは耐えられない、反対にちゃんと準備した授業で生徒が喜んでくれるのがうれしい、だから、授業の振り返りも休みの日に研修会に参加するのも自分のためと思えばなんとか時間を作り出そうという気持ちになるのではないかと思う。

全体的な感想

1. 今回の研究会の内容はいかがでしたか。

- 自分が4月から働く際のイメージがしやすくなりました。
- 英語教育について議論する機会は中々ないので非常に刺激を受けた。
- 教師1年目のリアルなお話を聞くことができよかった。
- 若手及びベテランの先生たち皆さんのお話は大変参考になりました。特に、しっかりと考えて教育に望んでいる若い人たちに関心しきりででした。ありがとうございます。
- 4月から教壇に立つにあたって意識しなければならないことを、先生方の経験などを通して、具体的に学ぶことができ嬉しく思います。また、実際に働く中で大変だったことや、心がけていたことなど、教育現場のリアルを知ることができて、今から私が何をしなければならないかを考えるきっかけになりました。

2. 講師の先生への質問・コメント等ありましたらお寄せください。

- 講師の先生たちは、合格するべくして合格したのだなという感想をもちました。
- 本日はお忙しい中、貴重なお話をいただきありがとうございました。4月から教壇に立つことに対して、漠然とした不安を抱えていましたが、お話を聞いて、今私がやらなければならないことは何かを考えることができました。英語科の教員としてのやりがい、大変なこと、4月までのスケジュールについてなどを学ぶことができ、大変勉強になりました。4月が来るのが待ち遠しいです。改めまして本日はありがとうございました。

おわりに



あきた COFS&英語授業研究会協同企画の「4月から教壇に立つ学生の不安や悩みに応える」も今年で3回目となりました。毎年のことながら、蛸嶋先生と都丸先生のような若手の先生の発表を聞いて、僕が先生になりたての頃はこんなにちゃんとしてたかな？と思わず思ってしまうとともに、こんな先生に教えてもらえる生徒たちは幸せだな、巷では暗い話題が多い教育界ではありますが、未来は明るいなど安心します。

4月から先生になる学生からも、いろんな悩みや相談が出されましたが、それはちゃんと現実的に教師としての自分の姿を思い描いている証拠です。今日の話の中に何回も出てきた high frequency word の「一人で悩まず周りの先生に相談」しながらお仕事をしてくれれば、きっと幸せな教員人生を送ることができると思います。今日発表してくれた都丸先生がそうであったように、今日参加してくれた学生のだれかが数年後にこの会で発表してくれるのを楽しみにしています。

(文責：佐藤 剛)